

事例番号:290144

## 原因分析報告書要約版

産科医療補償制度  
原因分析委員会第五部会

### 1. 事例の概要

#### 1) 妊産婦等に関する情報

初産婦

#### 2) 今回の妊娠経過

妊娠 32 週 5 日 妊娠高血圧症候群の診断で当該分娩機関に紹介  
超音波断層法で、臍帯動脈(UmA)-RI 0.569、中大脳動脈  
(MCA)-RI 0.565 と胎児脳血流の再分配傾向を示す  
ノンストレスで胎児の健常性に異常は認めない

#### 3) 分娩のための入院時の状況

妊娠 33 週 2 日

16:15 前日より胎動減少を自覚し受診

血圧 175/104mmHg、尿蛋白(4+)

時刻不明 胎児心拍数陣痛図において、基線細変動の消失、胎児心拍数

基線 180 拍/分の頻脈、高度遅発一過性徐脈を認める

16:59 入院

#### 4) 分娩経過

妊娠 33 週 2 日

20:43 胎児機能不全の診断で帝王切開にて児娩出

胎児付属物所見 胎盤に石灰沈着、白色梗塞を認める

#### 5) 新生児期の経過

(1) 在胎週数:33 週 2 日

(2) 出生時体重:1651g

(3) 臍帯動脈血ガス分析:pH 7.083、PCO<sub>2</sub> 63.2mmHg、PO<sub>2</sub> 20.8mmHg、  
HCO<sub>3</sub><sup>-</sup> 12.9mmol/L、BE -10.3mmol/L

(4) Apgarスコア:生後1分1点、生後5分6点

(5) 新生児蘇生:人工呼吸(バッグ・マスク)

(6) 診断等:

出生当日 早産児、低出生体重児、新生児仮死、呼吸窮迫症候群(RDS)、播種性血管内凝固症候群(DIC)、血小板減少、上部消化管出血、低血糖の診断

(7) 頭部画像所見:

生後3日 頭部超音波断層法で、PVE 両側Ⅱ度を認める

生後32日 頭部MRIで、脳室周囲白質軟化症(PVL)を認める

## 6) 診療体制等に関する情報

(1) 施設区分:病院

(2) 関わった医療スタッフの数

医師:産科医2名、小児科医1名、麻酔科医1名

看護スタッフ:助産師1名

## 2. 脳性麻痺発症の原因

(1) 脳性麻痺発症の原因は、妊娠32週5日外来受診以降、33週2日までの間に生じた脳の虚血(血流量の減少)により脳室周囲白質軟化症(PVL)を発症したことである。

(2) 妊娠経過中に生じた脳の虚血(血流量の減少)の原因は胎盤機能不全の可能性が高い。

(3) 児の未熟性がPVL発症の背景因子となった可能性がある。

## 3. 臨床経過に関する医学的評価

### 1) 妊娠経過

(1) 健診機関における妊娠中の管理は一般的である。

(2) 妊娠32週5日に妊娠高血圧症候群のため高次医療機関での管理が必要と判断し、当該分娩機関へ紹介としたことは適確である。

- (3) 妊娠 32 週 5 日当該分娩機関受診時の対応(超音波断層法を実施、自宅安静と自宅血圧測定の指示)は一般的である。

## 2) 分娩経過

- (1) 妊娠 33 週 2 日受診後の対応(超音波断層法、分娩監視装置装着)は一般的である。
- (2) 妊娠 33 週 2 日救急外来受診時の胎児心拍数陣痛図において、子宮収縮時に遅発一過性徐脈を認めるためリトリン塩酸塩注射液を投与したことは選択肢のひとつであるが、18 時以降子宮収縮を認めない状況でも基線細変動が乏しい、一過性頻脈なし、遅発一過性徐脈ありと判断した上で、19 時 30 分まで経過観察をしたことは一般的ではない。
- (3) 妊娠 33 週 2 日 19 時 30 分に胎児機能不全のため緊急帝王切開を決定したことおよび妊産婦と家族への同意取得の方法(書面による説明と同意取得)は一般的である。
- (4) 緊急帝王切開の決定から 73 分後に児を娩出したことは一般的ではない。
- (5) 臍帯動脈血ガス分析を行ったことは一般的である。

## 3) 新生児経過

- (1) 新生児蘇生(バッグ・マスクによる人工呼吸)は一般的である。
- (2) NICU 管理としたことは一般的である。

## 4. 今後の産科医療向上のために検討すべき事項

### 1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

- (1) 「産婦人科診療ガイドライン-産科編 2014」の胎児心拍数波形レベル分類に沿った対応と処置を参考にし、胎児心拍数陣痛図の判読と対応を習熟し実施することが望まれる。
- (2) 分娩監視装置等の医療機器については時刻合わせを定期的に行うことが望まれる。

【解説】本事例では、救急外来における胎児心拍数陣痛図の印字時刻が不明であった。徐脈の出現時刻等を確認するため、分娩監視装置等の医療機器の時刻合わせは重要である。

- (3) 胎盤病理組織学検査を実施することが望まれる。

【解説】胎盤病理組織学検査は、重症の新生児仮死が認められた場合には、その原因の解明に寄与する可能性がある。

2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

緊急帝王切開を決定してから手術開始までの時間を短縮できる診療体制の構築が望まれる。

3) わが国における産科医療について検討すべき事項

(1) 学会・職能団体に対して

なし。

(2) 国・地方自治体に対して

なし。